

# SOYFOOD 月刊 ソイフードジャーナル Journal

# 10

2019. OCT.

大豆加工食品総合専門誌

[www.food-journal.co.jp](http://www.food-journal.co.jp)

特集

統計からみる

## 豆腐市場の推移

事業者数・メーカー規模別の構造と  
出荷量・消費の動向を総まとめ



マメでないマメ子さんのやってみた。「コク旨豆腐ステーキ」





豆腐業界・この人に聞く～経営の要諦編～

## 5S、6S、Super 6Sへ 独自の活動で人を磨く

増幸産業(株) (埼玉県)

代表取締役社長 **増田 幸也 さん**

日本発の品質管理・職場環境改善手法である5S活動(※1)、アメリカ発ではあるが日本で大きく広がったQC活動(※2)。どちらも品質管理、生産管理の有効な手段として取り入れている会社は多いが、中には活動の停滞や形骸化に悩む企業が多いのも現実だ。そんな中、「5S活動に出会って人生が変わった」と話す経営者がいる。摩砕機「スーパーマスコロイダー」等で知られ、今年、創立97年となる増幸産業(株)代表取締役社長の増田幸也氏だ。

QCサークル活動での金賞受賞



※1 5S活動 整理・整頓・清掃・清潔・しつけの5つのSからとられた活動。職場の環境や品質の改善に資するとされる。

※2 QC活動 品質管理に関わる活動。その活動を自発的に行うグループがQCサークル。文中のPT活動は、この活動とサークルを増幸産業が独自に発展させたもの。





研究所内の様子

平成7年新工場建設を控え、社長に就任する予定だった増田氏は、これを機会に、「心身共に新しくなりたい」と考えていた。しかし、なかなか良い考えが浮かばない。そんな時、神田の書店で出会ったのが5S活動の本だった。早速、本をあるだけ買い込み勉強した。

そして「これだ！」と思い、平成

6年12月5S活動をキックオフ。「整

理、整頓、清掃、清潔、躰」を地道に、そして強力に展開した。「5Sバカ」と言われるほど打ち込んでいくと、次第に製品の品質は良くなり、コストは下がり、同時に社内に規律や結束が芽生えた。数年が過ぎた頃、さらにその上を目指すには、人の質

II「人質(ジンシツ)」を上げる必要があると思うようになった。

そこで新たに取り入れたのが「QC活動(小集団改善活動)」だった。5SとQCを同時進行。言葉では簡単だが、日常業務と2つの活動を並行して行うのは相当に大変だった。

4~5人でチームを組み、半年スパンで活動する改善活動。年に2回の社内発表会を実施し、かなり効果を上げたが、これも数年経つとマンネリ感も出始めたこともあり、PT(プロジェクトチーム)活動と名前を変更し、「目標必達」の願いを込めて活動を継続した。

### ISOとの出会い

ちょうどその頃(平成8年頃)から国際標準規格のISO9000が話題になりはじ

めた。「小さな大企業になりたい」が口癖だった増田氏にとっては格好の目標となった。社員にISO取得を切り出すと「大企業でも難しいのにウチにとれるはずがない！」と猛反発。それでも増田氏は「小さな大企業になりたいと言っている我々が取らずしてどうする！難しいから挑戦する価値があるのだ！」と持論を展開、社員を説得して取り組んだ。努力の甲斐あって平成12年にめでたく取得、全員で祝杯を挙げた。そして、社員達は「自分たちにもできるのだ！」と自信を持った。

### 超ISO活動にも取り組む

しかし、ISO活動も数年継続していると、「決められたことを決められた通りに作業しているからそれでいい」という、ある種、思考停止のような現象が見えるようになる。

そんな悩みを持ち始めた頃「超ISO研究会」の存在を知り、即座に入会。品質を担保しながら「もっと良くする方法がないか」を常に考えながらどんどん変えて、新たに標準化をしてゆくという考え方。当たり前のことなのだが、これがなかなかできないのが実情だ。会社には3つの品質がある。製品の質、人の質、



社内に貼られたスーパー6S活動やPT活動、個人での活動宣言など



運営システムの質だ。このそれぞれの品質を常にブラッシュアップすることが肝要だ。

## 活動20年目に「スーパー6S活動」に深化

5S活動も20年を迎えようとしていた時、もう一段深化した活動にしたいと思い、思考錯誤した。社員に「仕事をしていてどんな時に幸せ(遣り甲斐)を感じるか?」と聞いてみると、「仲間から認められた、お客

様から感謝された、昇進した、今までできなかったことができるようになった時」と答えた。すなわち「自分の成長を実感した時」ということだ。ならば「成長できる環境をシステム化すればよい」と考え、「仕事を通して幸福(シアワセ)を創造する」活動を作りこんだ。活動のキーワードは『創造、進化、成功、成長、深奏(シンソウ)、幸福(シアワセ)』だ。「来年の自分がどうありたいかを『具体的に想像』し、それに向かってPDCA(※3)を回す」というものだ。『仲間とともに新しい価値の「創造」に参加し、会社を「進化」させ、「成功」体験を積み重ね、自らも「成長」し、仕事に「深み」を奏で、この事業に関連するすべての人々の「幸福(シアワセ)」を増す＝増幸』と定義し、「プロセス重視」のスーパー6S活動を全社展開している。

## これからも改善に 終わりはない

学生の頃、月末になると父母はよく資金繰りの話をしていた。また入社後、営業で

お客様を回ると、品質に問題があって増幸製品を使わなくなったと言われたこともあった。20数年かかったが、今は品質も向上し、無借金経営にもなれた。

増田社長の座右の銘は「今が瀬戸際60点」だという。そこには、今が良くない状態でも、悲観することは無い、今より少しでも良くなるように努力すればいい。そして今が良い状態だったとしても、ちよつと油断すればすぐに悪くなる。だからいつも「今が瀬戸際」と思っ、今よりもっとよくするために何をすべきかを考えることが何より大切という。会社には見えない色の「社風」がある。

「『社風』を変えろ」ということが、どれほど大変なことか。最初に5Sに取り組んだ時、本当に痛感した。こんなに小さな会社なのに、社員の意識はなかなか変わらない。私の言うこともなかなか浸透しない。だからこそ、コツコツとしつこく続けるしかなかった。『継続は力なり』を身をもって感じた」

## アグレッシブに幸福を求める

常に、前へ、前へ。増田社長の話は常にアグレッシブだ。しかし、決



工場内の様子

正門前にある増田家3代目安次郎氏が1852年に制作した18ポンドカノン砲(写真は復元品)



※3 PDCA P(プラン)、D(ドゥー)、C(チェック)、A(アクト)



# 人生を楽しむ、冗談抜きで趣味は「仕事」

して真面目一辺倒の硬い人ではない。それは、「おもしろ、可笑しく、一所懸命」という社是や、インタビュー中に何度か聞いた「人生は1回しかない、楽しまなきゃ」と言う言葉にも現れている。

どうせ生きるなら右肩上がり的人生を目指すべきだ。与えられた仕事は常に「汗を流して、心を込めて」取り組む。裏表なく、いつもそのような姿勢で仕事をしている人を必ず会社は見ている。しかし、「懸命」の中にも「遊び心」が必要だ。また、「難」が有って「有難う」。だから、苦しいことも楽しんでしまえばいいのだ。というのが、増田社長の人生観なのだろう。

人生を楽しむ、それはその多趣味ぶりにも現れている。ハーレーダビッドソンを駆って、北海道の大地を一人ツーリングする。マラソンを始めれば100kmを走るウルトラマラソンにも挑戦。41年ぶりに剣道を再開し3段を取得したり、作詞・作曲に挑戦するうちに5枚以上のCDをリリースし、バンドを組み毎年ライブを行うようにもなった。

すべて50歳を過ぎてから始めたことだが、今「趣味はなんですか？」と問われると、「仕事です」と冗談

抜きで言える自分がちよっと嬉しいと話す。

新しい物好きでもある。マイクロプラスチックが問題になれば、会社のストローもすぐに紙製に変える。見慣れない車があると思ったら、お客様送迎用の水素自動車「MIRAI」だったりする。増幸産業株の飽くなき探究心は、増田社長の個性と、社員一丸となったPT活動、充実した研究室、ホコリひとつない工場から生まれるのだろう。豆腐の未来もそこに潜んでいるかもしれない。



増幸産業のマスコット「マックス君」と



市販車としては日本初の水素充填を利用した電動車「MIRAI」と

## ■増田幸也 (Masuda・Sachiya)

1956年(昭和31年)5月生まれ、  
1995年(平成7年)、代表取締役社長に就任。  
趣味：仕事、車・オートバイ、唄づくり、ギターの  
収集と演奏、マラソン、剣道。

## 増幸産業(株)

### ■本社・工場■

〒332-0012  
埼玉県川口市本町1-12-24  
TEL: 048-222-4343 (代) / FAX: 048-223-9790  
<http://www.masuko.com>



増幸産業社屋